

首都圏在住者 469人に聞いた
Uターン意向調査

U-turn
YaMaGaTa

Uターン白書

2015 概要版

山形を応援する県外在住の若者たちのゆるやかなネットワーク
「若者ふるさと山形応援ネット」が、
山形へのUターンを考えている若者をサポートするために
実施した首都圏在住者に対する
Uターン実態調査のレポートです。

はじめに

この白書は、山形県とヤマガタ未来ラボが協同で行
「若者ふるさと山形応援ネット」が、
『山形へのUターンをこれから考えるかもしれない若者を
サポートしていくにはどうすれば良いか』を明らかにするために、
首都圏在住の地方出身者を対象に実施した、出身地へのUターン 識調査です。

様々な調査から、「地方で暮らす」とい 事に
目を向ける若者が増えているとい 事が明らかになってきていますが、
私たちは、その中でも特に、「地元へUターンする」とい 事に
注目して調査しています。

昨年作成した「Uターン白書2014」では、
県外に転出した山形県出身の若者たちがUターンについて
ど 考えているのかの実態を明らかにしましたが、
この「Uターン白書2015」では、山形県出身者 外にも
対象を広げて調査を行い、更に具体的な実態に迫りました。

この白書は、『Uターン者を受け入れる地元側が、
「地元へUターンする」ことに興味・関心を持つ人を、
ど サポートしていくべきか』について、提言を行 ものであります。

調査の実施にあたってご協力頂いた関係者の皆様、
白書作成にご協力頂いた専門家の皆様に厚く御礼を申し上げます。

※尚、この調査は、やまがた若者チャレンジ応援事業の採択を受けて実施しました。



INDEX

- P1 はじめに
- P2 調査概要
- P3 調査結果

PART1：これからのUターン促進施策は、「戻りたいけど…層」に注目？！

PART2：戻りたいけど層が感じている、地元暮らしへの心配事

PART3：戻りたいけど層のUターン2大心配事をどう解決？！（仕事・コミュニティー）

PART4：戻りたいけど層の地元に戻りたくなるキッカケ

PART5：戻りたいけど層との良い関係の築き方（イベント・二地域居住）

- P14 まとめ

調査概要

調査実施期間

平成27年3月20日（金）～平成27年3月31日（火）

調査手法

- ・ 調査対象：現在首都圏に在住する20代から40代までの男女
- ・ 調査手法：インターネットリサーチ「Fastask」(1)を利用
- ・ 予備調査回答者：33,975名
 - ※予備調査内で「首都圏 外で高校、大学、社会人まで過ごした」と回答した方を本調査対象者とした。
- ・ 本調査回答者：469名（山形県出身者132名、山形県 外の地方出身者337名）
 - ※回答にあたっては仕事や生活への具体的なイメージが必要なため、学生は対象に含めずに実施した。
 - ※複数の都道府県で暮らしたことがある方は対象とせず、固定の「生まれ故郷」が存在する方を対象とした。

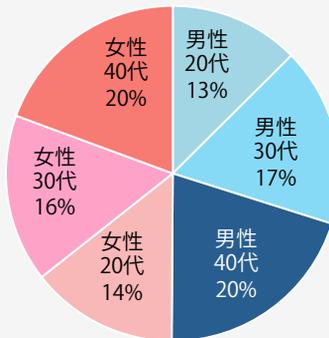
(1) 株式会社ジャストシステムが運営するネットリサーチシステム。

アンケート回答者

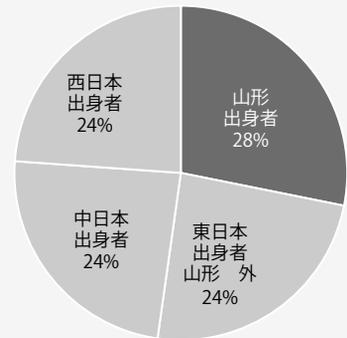
- ・ 首都圏在住の20代から40代（学生は除く）
- ・ 固定の生まれ故郷が存在する方

469人

性別・年代



出身地



調査内容

- 地元に戻る 向について
- 地元暮らしのイメージについて
- 地元暮らしの心配事について
- 地元暮らしの心配事について（仕事）
- 地元暮らしの心配事について（コミュニティ）
- 首都圏における地元との関わりについて
- 地元暮らしを考えるきっかけについて
- 二地 居住への興味について

調査実施主体 若者ふるさと山形応援ネット
調査協力会社 株式会社エポックコミュニケーションズ

PART 1

これからのUターン促進施策は、 「戻りたいけど 層」に注目？！

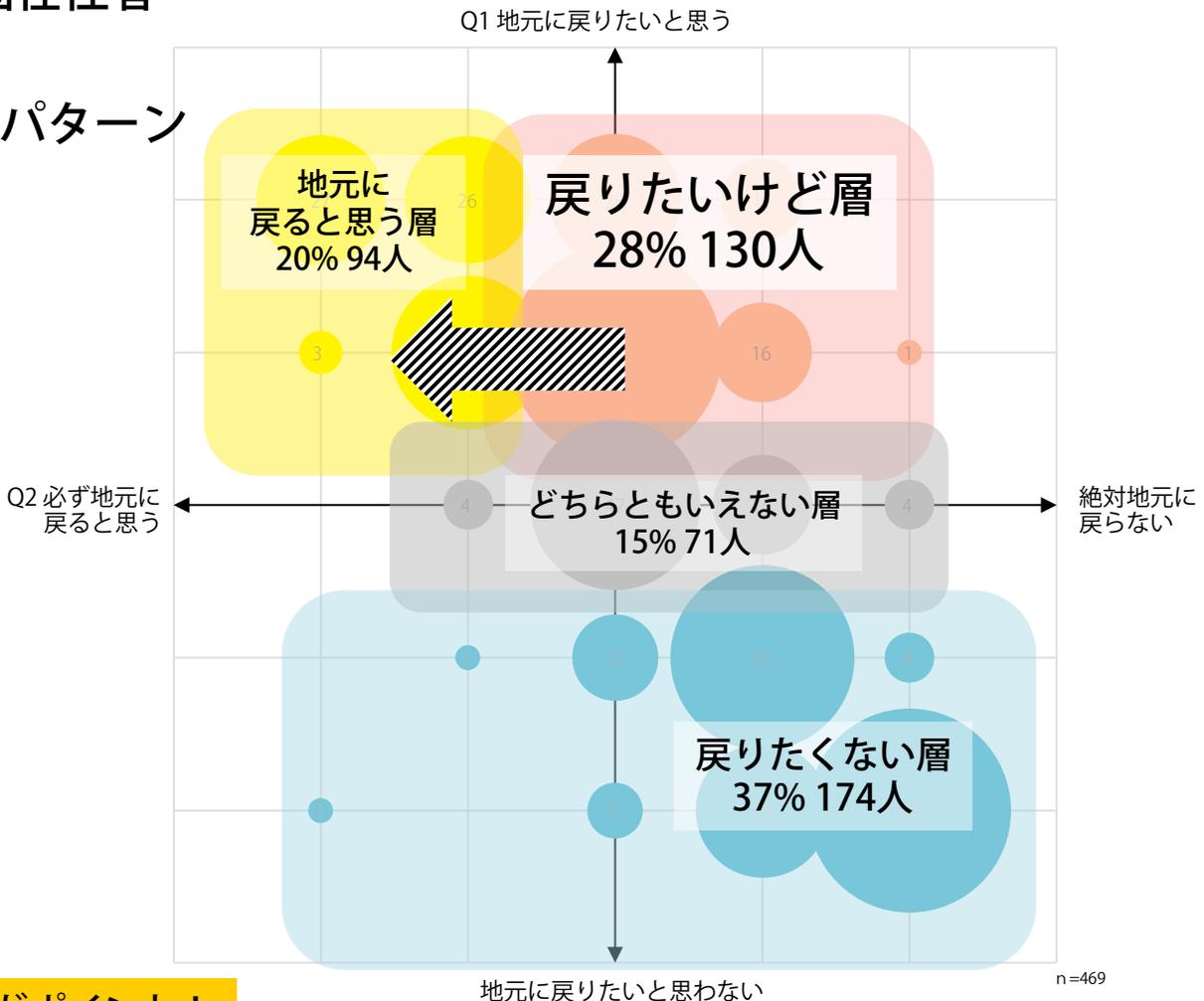
首都圏在住者の「地元へ戻る」とい ことへの考え方は様々。Uターン促進施策はどんな層にアプローチすればよいのでしょうか。

Q あなたは現在首都圏で暮らしていますが、「地元に戻りたい」と思う事がありますか？
※実際に戻るかどうかは別にして、あなたご自身のお気持ちをお答えください。[※本調査Q1]

Q では、将来、地元に戻る可能性はありますか？ ※戻る時期は問いません。[※本調査Q2]

首都圏在住者

4 パターン



ここがポイント！

2つのアンケートから、首都圏在住20~40代の地元へのUターンへの考え方は、4つのパターンに分類された。「地元に戻りたい気持ちがあり、将来戻ると思」と答える層が約2割存在するのに対し、「地元に戻りたい気持ちはなく、絶対地元に戻らない」と答える層が約4割存在している。

注目すべきは、「地元に戻りたいと思っていながらも、まだわからない、戻らない・戻れない」と答えている層が約3割存在していること。「どちらともいえない」も合わせると、Uターンの可能性がある人は全体の6割に及ぶ。

「戻りたい」と思いながらも、「きっかけがない」「明確な戻る理由がない」からUターンに踏み出せなかったり、「Uターンしない・出来ない理由」が増えて行く人が、若者ふるさと山形応援ネットのメンバーや周にも多い。こうした実感からも、Uターンを受け入れる地元側にもっと「戻りたいけど層」を巻き込む施策の展開が期待される。

これからのUターン促進施策で行うべきは、「戻りたいけど層」を「地元に戻れると思う層」へと“てる”ことではないだろうか。

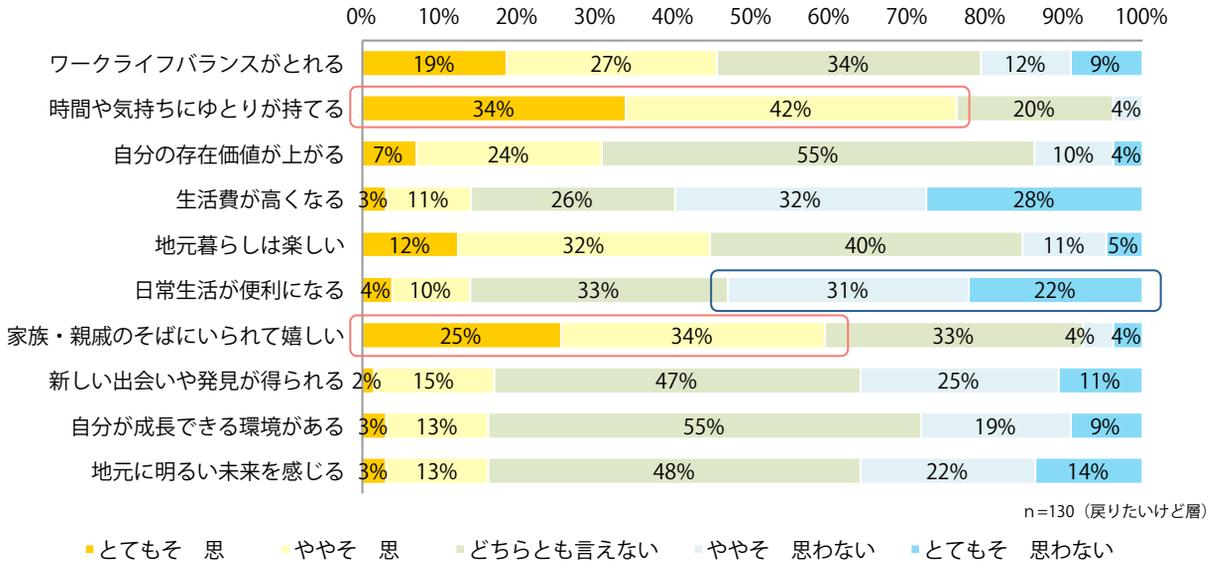
→次ページからは、主に「戻りたいけど層」130人を中心に分析していきます。

PART 2

戻りたいけど層が感じている、 地元暮らしへの心配事

戻りたいと思いつつも、戻るか戻らないかは決めかねている「戻りたいけど層」の、地元で暮らしへの心配事は一体何なのでしょうか。

Q. 「地元で暮らすこと」について、あなたはどのようなイメージをお持ちですか。 [※本調査Q3]



■ポジティブイメージ

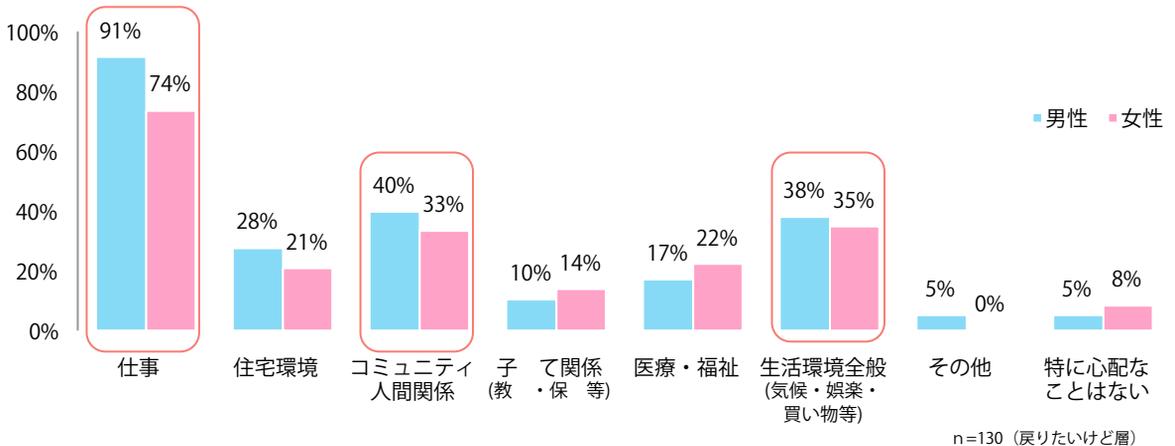
時間や気持ちにゆとりが持てる！
家族・親戚のそばにいられて嬉しい！



■ネガティブイメージ

日常生活が不便になる
新しい出会いや発見が得られない
地元にも明るい未来を感じない

Q. 「地元で暮らす」と考えた場合、 下のうち心配だと思える事をお選びください。 [※本調査Q4]



地元暮らしの心配事

男女ともに1 は **仕事**、第2 は **コミュニティ**、**生活全般**

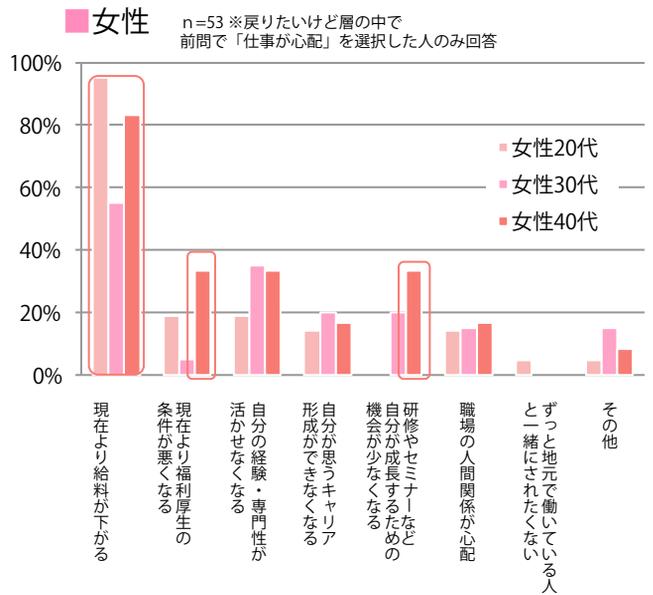
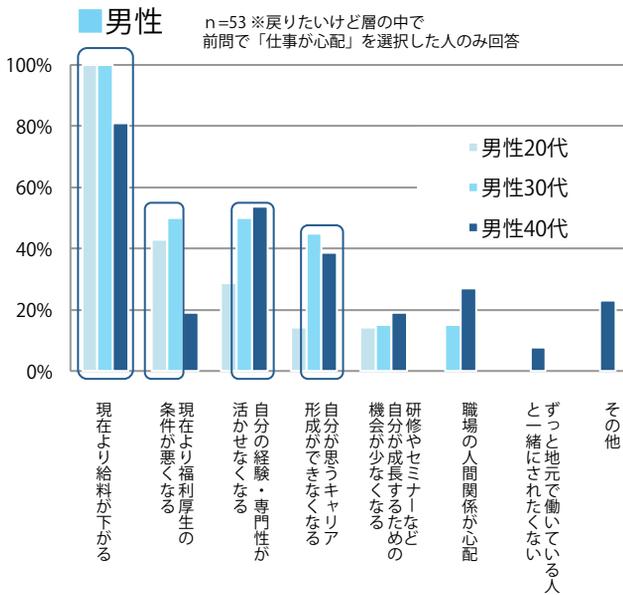
PART 3

戻りたいけど層の Uターン2大心配事を どう解決する?! (1)

仕事 WORK

戻りたいけど層の心配事1 の「仕事」。一体仕事のどんな点が心配なのか、性別・年代別に詳しくみていきます。

Q. 地元の「仕事に関する心配」について、 下のうちあてはまるものがあれば選んでください。
[※本調査Q5]



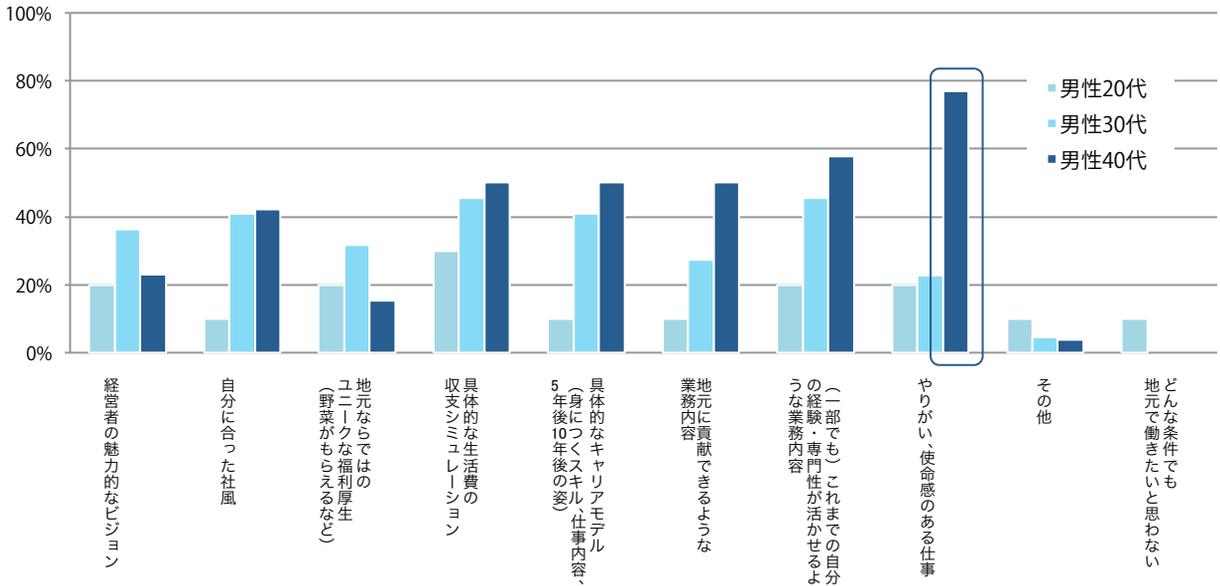
地元での仕事の心配事

- 男性・女性共通 現在よりも**給与**が下がるんじゃないかな…
- 男性30代・40代 **自分の経験・専門性**が活かせなくなりそう…
キャリア形成に不安!!
- 女性40代 現在より**福利厚生**の条件が くなりそう…
研修やセミナーなど **自分が成長するための機会**
が少なくなる…

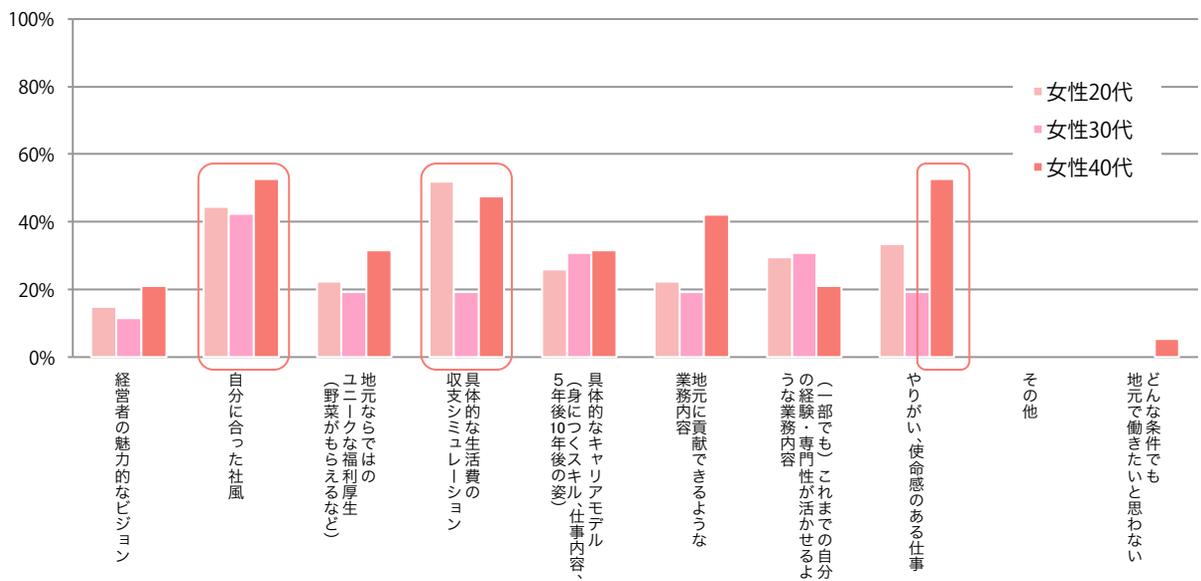
Q. 地方の仕事は首都圏に比べて一般的に給与水準が下がると言われていますが、どのような条件があれば、地元で働いてみたいと思いますか。
 下のうち、あてはまるものあればお選びください。

※現在お仕事をされていない方も、仕事をする想定でお答えください。[※本調査Q6]

男性 n=58 (戻りたいけど層)



女性 n=72 (戻りたいけど層)



ここがポイント！

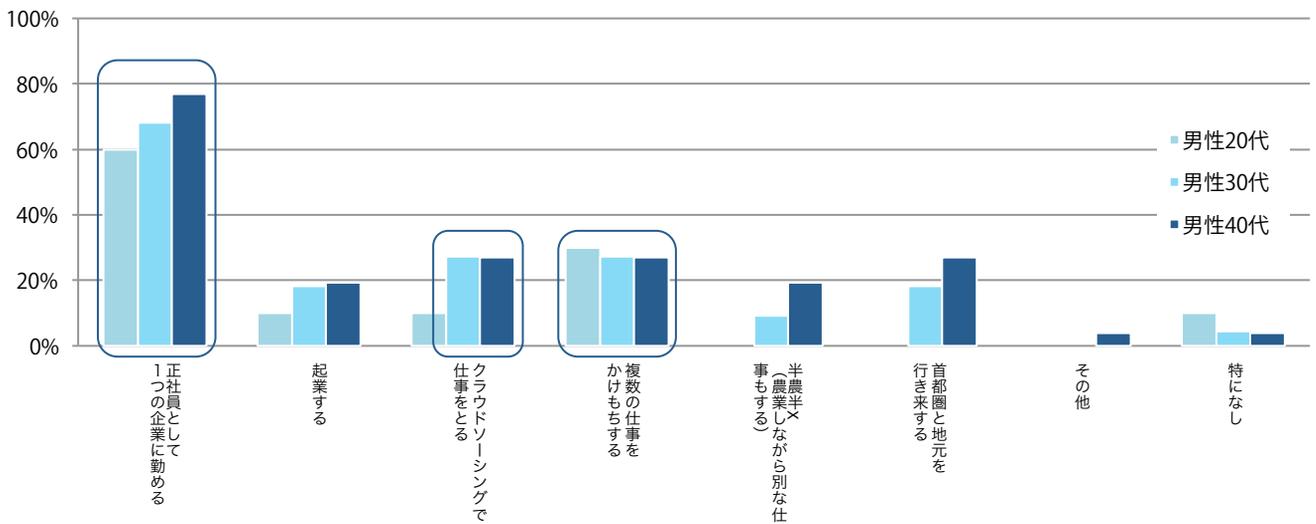
地元でUターンすることの仕事での心配は 倒的に「給与が下がること」が多い。給与水準を上げるための産業振興策なども必要だが、一方で、給与が下がっても、条件をクリアすれば地元で働きたいという人は多い。

- 特に、
- 「やりがい・使命感のある仕事」(40代男女)
 - 「具体的な生活費の収支シミュレーション」(20・40代女性)
 - 「自分に合った社風」(20~40代女性、30・40代男性)

このような条件を具体的に見せていくことが、「戻りたいけど層」が『給与は下がるけど、それでも地元でUターンしたいし、する』となるために必要なことと言える。

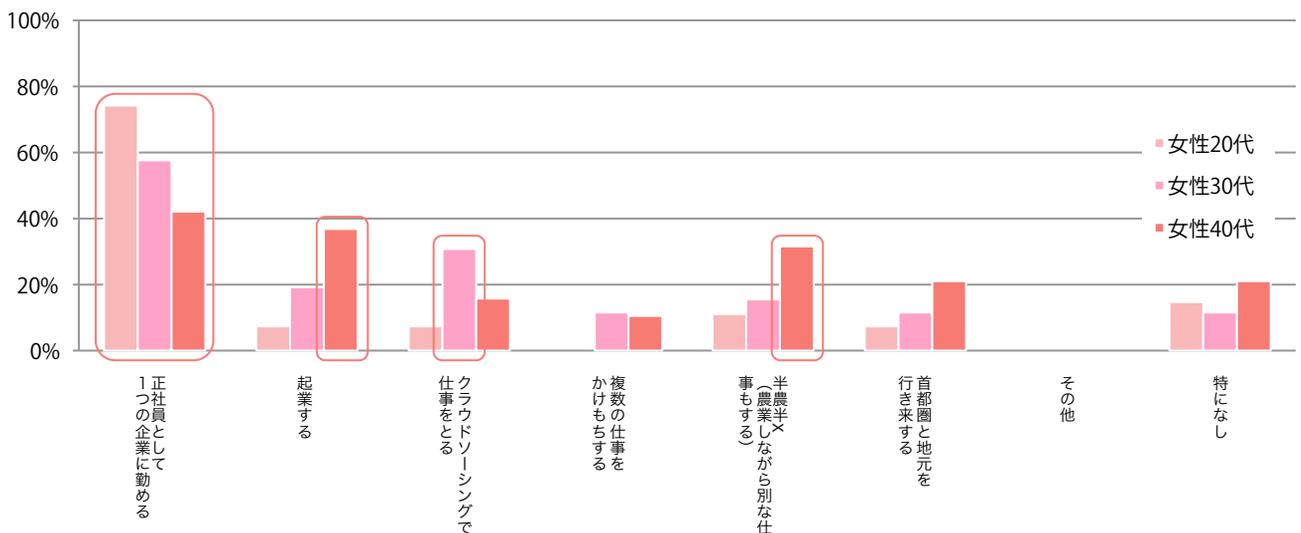
Q. 仮に地元で働くとした場合、 下のような働き方に興味はありますか。
 あてはまるものがあればお選びください。[※本調査Q7]

■ 男性 n=58 (戻りたいけど層)



どの年代も、「正社員」が他の項目よりも差をつけトップになっている。
 また「クラウドソーシング」「複数の仕事をかけもち」に興味を持っていることがわかる。

■ 女性 n=72 (戻りたいけど層)



男性と同じくどの年代も、「正社員」がトップになっている。(特に20代は8割近く選択している！)
 また30代は「クラウドソーシング」、
 40代は「起業」「半農半X」に興味を持っていることがわかる。

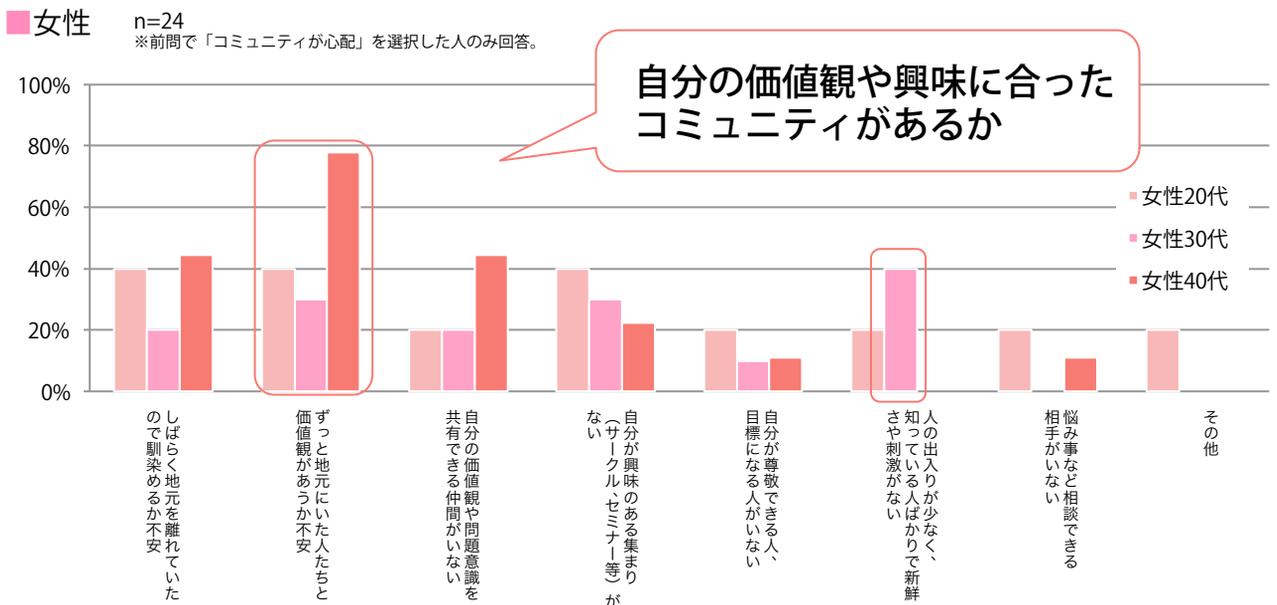
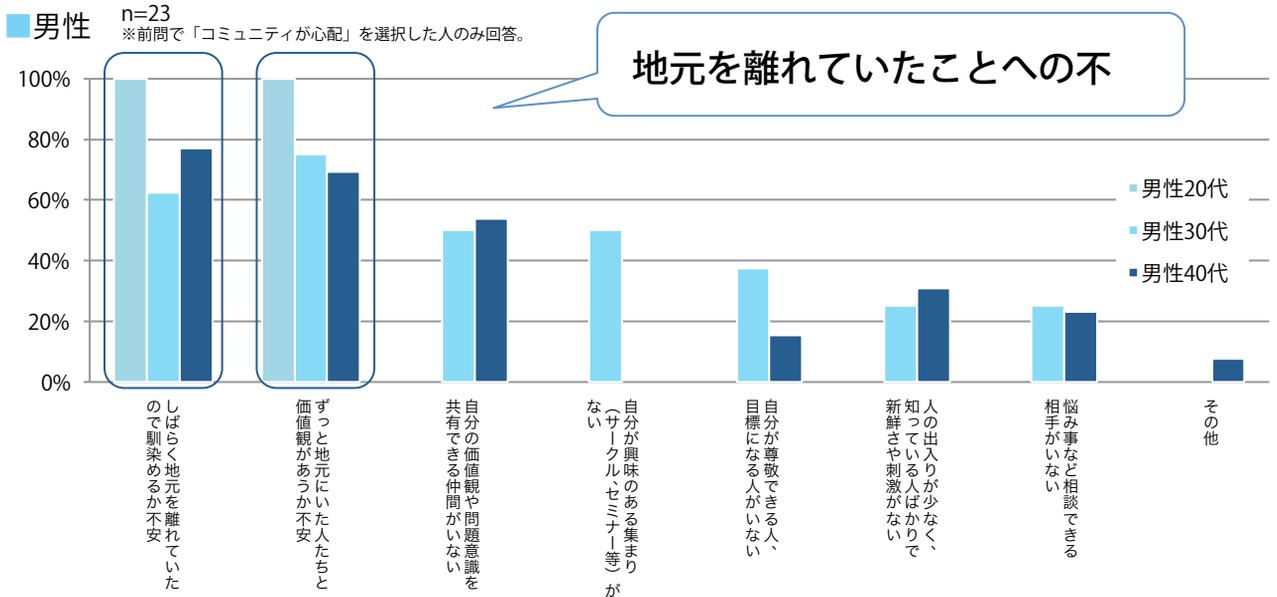
PART 3

戻りたいけど層の Uターン2大心配事を どう解決する?! (2)

コミュニティ COMMUNITY

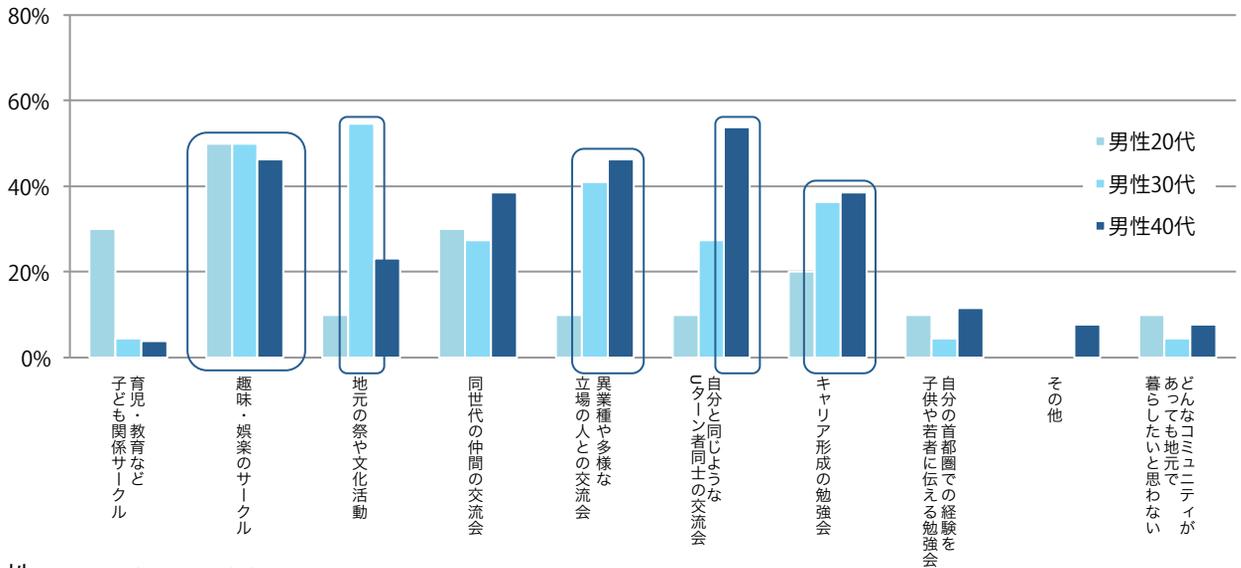
戻りたいけど層の心配事2 の「コミュニティ」。一体コミュニティのどんな点が心配なのか、性別・年代別に詳しくみていきます。

Q.地元の「コミュニティ・人間関係に関する心配」について、
あてはまるものがあれば選んでください。[※本調査Q8]

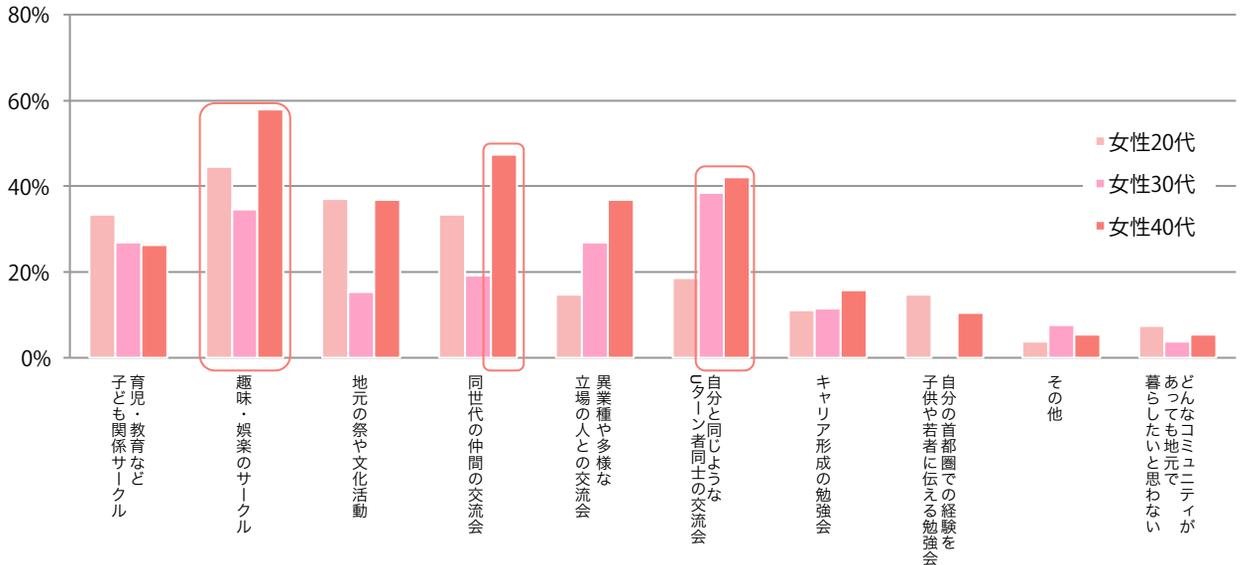


Q. どのようなコミュニティがあれば、地元で暮らしてみたいと思いますか。
以下のうち、あてはまるものあればお選びください。[※本調査Q9]

■ 男性 n=58 (戻りたいけど層)



■ 女性 n=72 (戻りたいけど層)



全年代・全世代から、「趣味や娯楽のサークル」に多くの回答が集まった。
また、男女ともに30代・40代は、「Uターン者同士の交流会」、
30代男性は、「地元の祭や文化活動」に関心をもっている。

PART 4

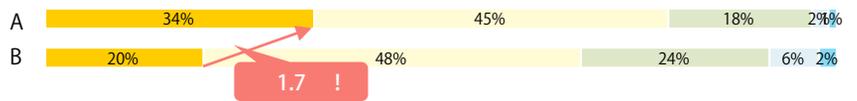
キッカケの なりになる、

を え も、元 ら み、キッカケは なの、元 に る、め いる、み い きます。

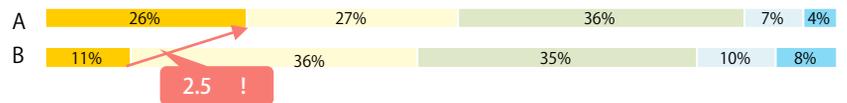
Q. 下の 目 に「いい、あなた」から「いい」
キッカケになるものはありますか？ 回 [Q13]

A: 元 に る、 n=94
B: キッカケ、 n=130

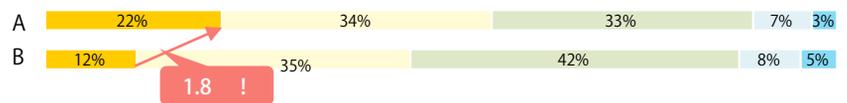
自分自身が家族から必要とされる



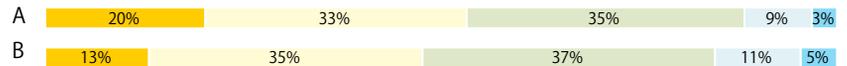
自分と価値観を共有できる仲間が地元にいる



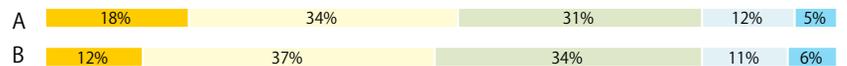
自分自身が家族以外の人から必要とされる



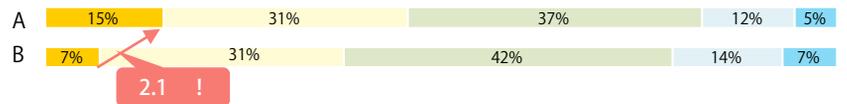
使命感をもって取り組めるものがある



仕事や活動を通じて地元へ貢献できる



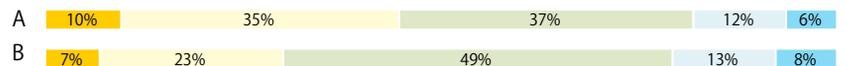
自分が住んでいる時には無かった
新しい取り組みが始まっている



家族と同級生以外の
新しいコミュニティに参加できる



地元外から新たに移り住んだ人が活躍している



地元では誰も出来ないが
自分には出来ることある



ポイント !

「元 に る、」におい にポイント の、「 ら される」「 有 る いる」
「 ら される」「 っ り める ある」な。
「 ら され いる」「 」「 」、 に り い っ になるポイン 言える。

ま、元 ら み、なるキッカケ、 「 り、け、」、 「元 に る」のギャップ の、「
有 る」「 ら される」「 の ら される」「 い り み」ある。

元 ら を するキッカケ、これらの 「 り、け、」「元 に る、」になる、に なポイントも
れない。

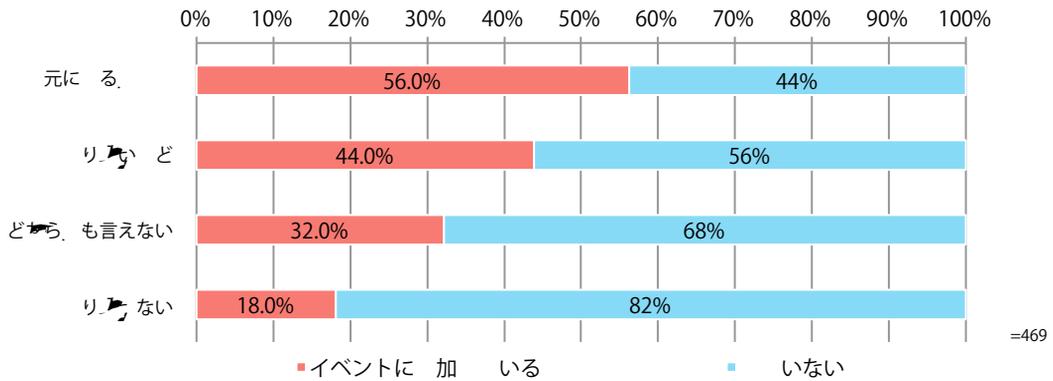
PART 5

「いい」の 「いい」の (1)

イベント EVENT

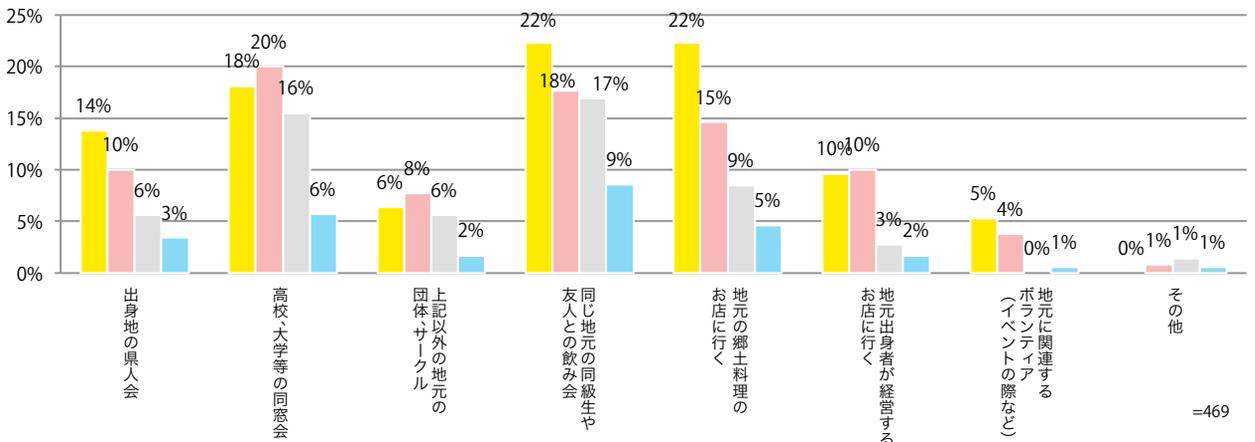
「いい」も、より「いい」の「いい」め、Uターン「いい」なるイベントに「いい」いきます。

Q.あなたは、「いい」に「いい」る「いい」や「いい」ン「いい」加「いい」な「いい」います。 [Q13]



「いい」の4パターン「いい」みる、「いい」る「いい」めている、「いい」イベントの「いい」加「いい」なっている。

Q.あなたは、「いい」の「いい」よ「いい」な「いい」に「いい」る「いい」や「いい」ン「いい」に「いい」加「いい」います？
「いい」あ「いい」は「いい」まるもの「いい」ん「いい」さい。 [Q13]



「いい」の「いい」も「いい」る「いい」る「いい」る「いい」る」は、「いい」の「いい」に「いい」加「いい」います。
「いい」の「いい」も「いい」る「いい」る「いい」る「いい」る」は、「いい」の「いい」に「いい」加「いい」います。

戻りたいけど層は、 こんなイベントに参加したい！！

20代 男性

地元で

- ・農作業、林業、漁業など地元の方の手伝いツアー

首都圏で

- ・同じ地元出身者が集まる会
- ・出張などで地元から出てきた人と地元出身者との交流会

30代 男性

- ・地元で頑張る企業・団体の見学・交流ツアー

- ・同じ地元出身者が集まる会
- ・首都圏で地元をアピールするイベント

40代 男性

- ・地元で頑張る企業・団体の見学・交流ツアー

- ・同じ地元出身者が集まる会
- ・出張などで地元から出てきた人と地元出身者との交流会

20代 女性

地元で

- ・首都圏の仲間同士で地元の祭に参加するツアー

首都圏で

- ・同じ地元出身者が集まる会
- ・首都圏で地元をアピールするイベント

30代 女性

- ・地元で頑張る企業・団体の見学・交流ツアー

- ・同じ地元出身者が集まる会

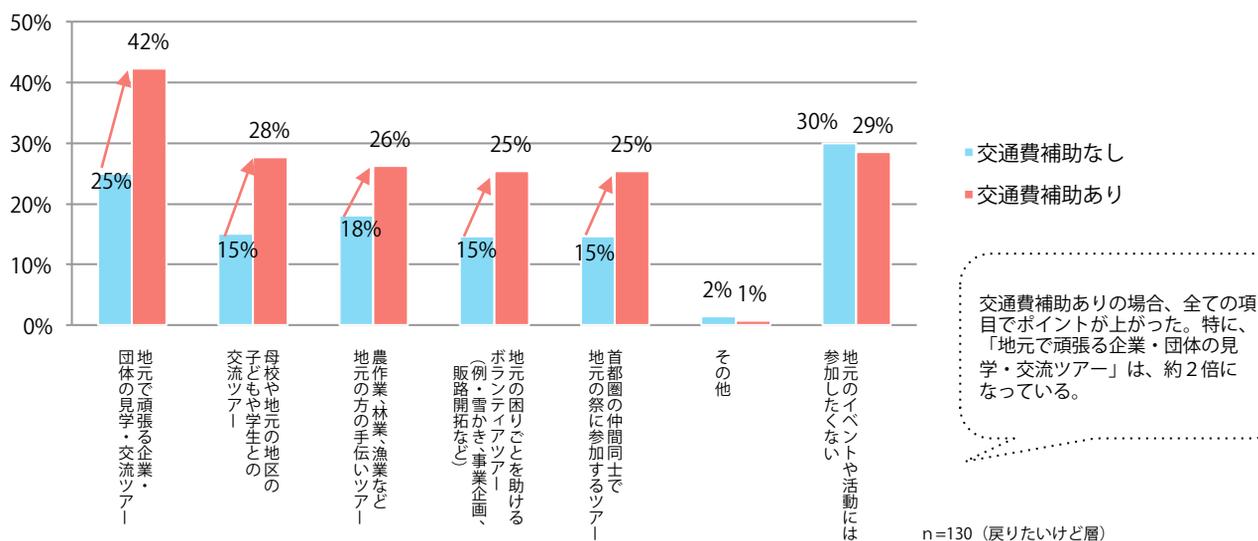
40代 女性

- ・農作業、林業、漁業など地元の方の手伝いツアー

- ・同じ地元出身者が集まる会
- ・首都圏で地元をアピールするイベント

Q. あなたは今後、 下のような活動やイベントがあれば参加したいと思いますか。 [※本調査Q11]
あてはまるものがあればお選びください。※地元ツアーは、首都圏からの交通費がかかるという 想定でお答えください。

Q. 交通費の補助が出た場合、参加したいと思う地元のイベントはありますか。 [※本調査Q12]
あてはまるものがあればお選びください。



ここがポイント！

地元に戻る気持ちがある層ほど、首都圏で地元に関わる何らかの活動やイベントに参加している。同窓会、地元の友人との集まり、地元の郷土料理店に行くなど、気軽に参加できるものには、「戻りたくない層」を除いて全体的に参加している傾向があるので、「Uターンのきっかけがない」「明確な戻る理由がない」うちから関係性を築くことが大切である。その際には、「若者が参加しやすい」「したくなる」場の設計を行うことが重要である。

PART 5

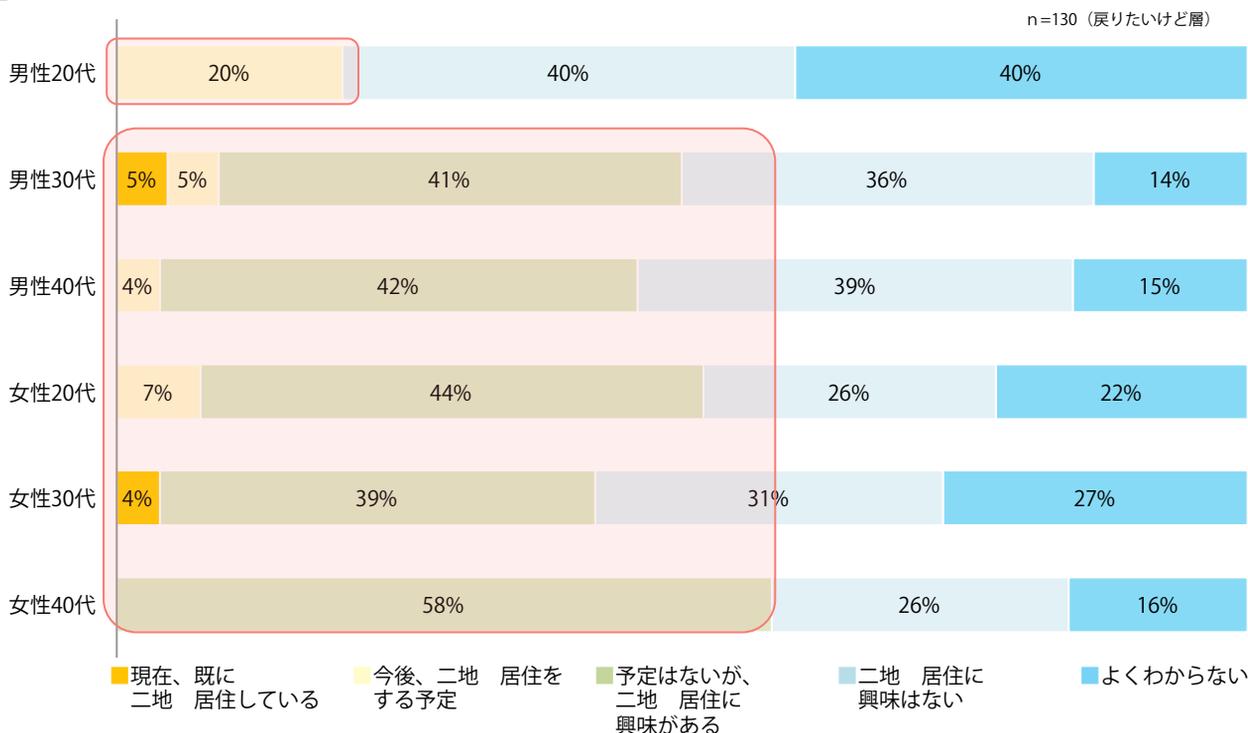
戻りたいけど層との 良い関係の築き方 (2)

二地 居住 LIFE

戻りたいけど層は、都会と田舎を行き来しながら暮らす二地 居住について興味があるのか、性別・年代別にみていきます。

Q. あなたは「二地 居住」に興味はありますか。

※「二地 居住」・・・二つの地 に生活拠点を設けること。主に都会の住居と農村とを行き来する生活が挙げられる。
例) 平日は都市部で仕事、休日は山里で土いじり、または海でサーフィンなど



二地域居住にしている人は、わずかであるが男性30代と女性30代に見られた。二拠点居住をする予定と回答したのは、男性20代が20%と一番多い結果となった。また、全体的にどの年代も、「予定はないが二拠点居住に興味がある」と回答しており、生活拠点を2つ持つことへの関心の高さが伺える。

ここがポイント！

「完全なUターン」がしやすい環境づくりも進めつつも同時に、二拠点居住を希望する人を受け入れる拠点や制度づくりが求められる。こうした一見Uターンではないが、二拠点を行き来する“中途半端”な人たちを受け入れることが、結果的に「完全なUターン」が増加する契機にもなるのではないだろうか。

「戻りたいけど層」は、地元とのつながりを待っています。

一度外に出てみて初めて、「地元」を客観的に見れるよ になり、
地元に対する自分の気持ちも変化していく人が多いです。

年齢と共に故郷を想 気持ちが強くなっていくのが
県外に転出した人が通る道だと思いますが、
特にライフイベントや仕事の変化も多い20代後半～40歳前後は、
ただただ故郷を懐かしむだけでなく、
自分と地元とのこれからの関係性を見つめ直す
大きな転換期といっても過言ではありません。

Uターンは大きな決断。
地元に戻るか、このまま県外に居続けるかと考え悩んでも、
適切な情報や適切な機会がなければ、
なかなか決断することが出来ないものです。

若者にUターンして欲しい、と思 のであれば、
仕事に恋に子 てに忙しい若者が、
そ したことに接触しやすい、参加しやすい機会を、
受入側の論理だけで行わず、
顧客目線で作って行くことが求められています。

「戻りたいけど層」は、地元とのつながりを待っています。

Uターン白書2015

2015年3月発行
Uターン白書2015

調査実施主体 / 若者ふるさと山形応援ネット
調査協力 / 株式会社エポックコミュニケーションズ
編集・デザイン / 株式会社グリーンアップル

本報告書の無断転載を禁じます。

